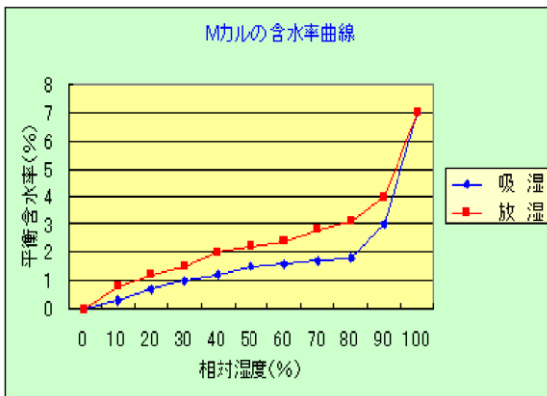
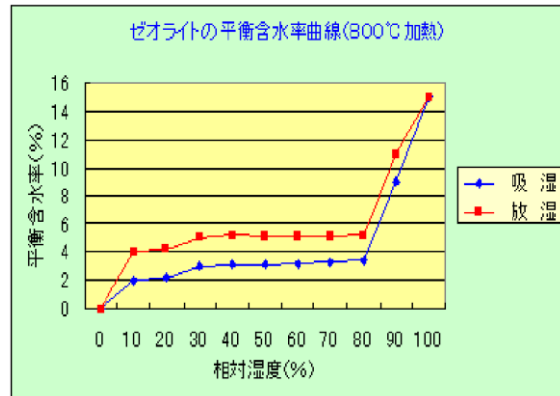


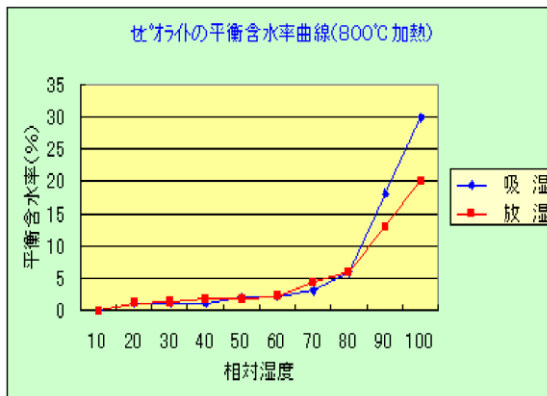
各調湿材の平衡含水率



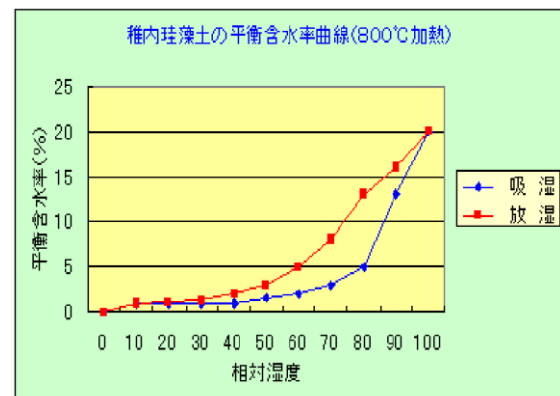
Mカルは、マクロポア(500nm以下)が多く相対湿度が高い領域での吸湿特性に優れている。



ゼオライトは、ミクロポア(2nm以下)が多いため相対湿度の低い領域での吸湿特性に優れ、吸湿過程よりも放湿過程の平衡含水率が高くなり、吸着した水分が放湿し難いと考えられる。



セピオライトは、焼成しないとミクロポアが多いが、焼成すると細孔半径20nm(メソポア)と大きいため相対湿度の高い領域での平衡含水率は高くなった。



稚内珪藻土はメソポア(2~50nm以下)が多く相対湿度が中~高領域に優れている。

nm(ナノメートル)とは長さの単位で、1nmは1/10億mになります。
調湿材の穴の半径はそれぞれ、ナノメートル単位の大変小さな穴になり、それぞれ穴の大きさにより各調湿材の特徴が出ています。